はり姫と。

No.08 2024年4月15日発行
県立はりま姫路総合医療センター
地域連携だより［はり姫と。］

———地域の医療を、ともにより良くしていく存在として

小児外科 診療科長（2023年度）
宮内 玄徳 Miyauchi Harunari

小児外科 診療科長
忍頂寺 毅史 Nintyouji Takeshi

小児外科 診療科長（2024年度）
中谷 太一 Nakatani Taichi

小児科・小児外科 3度目の春を迎えて。

こころもからだも、ケガも病気もじっくりトータルに診る体制、患者さんのトランジション（小児医療から成人医療へと移行）のサポート———

「はり姫」の小児科・小児外科は、2022年5月の開院とともにスタートしました。
1年目はすべてが手探りでかなり試行錯誤しましたが、“習うより慣れろ”で走り続けたところ、
2年目は他科・他職種との連携、トランジションがかなりスムーズになってきた実感があります。
いまでは、統合前の2つの病院に小児科や小児外科がなかったことが功を奏している部分も
あるように思っています。
（小児科 忍頂寺毅史）

小児科 × 小児外科　2023年度診療科長対談

患者さんをじっくり診る体制。風通しのよさ。

宮内　「はり姫」に常勤してちょうど1年になりますが、近隣の患者さんに来ていただいている手応えがあります。一人ひとりの患者さんをしっかり診られる体制や環境が整っていて、より高度な医療が必要なときは神大病院やこども病院に送ることができる——的確な判断やスムーズな連携が「はり姫」の強みではないでしょうか。

忍頂寺　開院1年目は正直、小児科・小児外科の体制がまだ未熟でした。医師が私ひとりの曜日もありましたし。それが2年目は、宮内医師をはじめそれぞれ専門性をもった医師6名体制で診療するようになり、**「○○医師がこの症状・疾患（消化器、アレルギー、腎臓、血液、神経、心身症）を診れるから、その周辺も診れるね」**と一歩踏み込めるようになりました。未診断の紹介についても、自信をもってお受けできるようになってきました。

宮内　いま小児外科の患者さんのうち、約3割が小児科経由、1割が救急経由です。小児科・小児外科の連携はもちろんですが、「はり姫」はそれ以外の診療科との風通しのよさも目を見張るものがありますね。**心身症の患者さんに対して、精神科がバックアップしてくれたり。消化器病が疑われたときには消化器内科がすぐに内視鏡検査をしてくれました。**全部の診療科がモチベーションを高く、それぞれと障壁なく付き合えるのは、すごく大きな財産だと思います。

忍頂寺　**私たちが入り口になってスクリーニングして、関連の診療科と連携して重たい症例を診られる環境**が整ってきています。たとえば救急で外傷の子どもが運ばれてきたとき、事前にお伺いをたてていなくても、脳外や整形に「こういう症例があってお願いできませんか」と持ちかけて嫌な顔をされたことがありません。

宮内　患者さんが15歳を越えて小児医療から成人医療に移行（トランジション）するにあたって、転院を含む心理的・医療的さまざまな理由でずるずると小児科・小児外科が受け持ち続けてしまう事例が昨今問題になっています。でも、**「はり姫」では内科・外科・精神科の領域にかかわらず前向きにトランジションできることが多いです。**これってなぜなんでしょう。

忍頂寺　私の推測ですが、統合前の2病院（旧・姫路循環器病センター、旧・製鉄記念広畑病院）ともに赤ちゃん以外を診ていなかったからではないかと。いい意味で「こんなものなんだ」と捉えてくれているように思います。

宮内　なるほど。各診療科で診ていたから、「小児年齢だから」という専門的障壁が低かったんですね。

忍頂寺　小児病棟の看護師も、病院統合前は成人医療にあたっていた人たちです。成人医療では基本的に慢性の病気を抱えた患者さんが多く、**すっきりとした診断がつかない疾患や小児慢性疾患についても丁寧に看護する体制がすでに備わっています。**そういう看護が急性期の入院にも応用されていて、バイタルを1日数回しっかり測ってくれたり、付き添いの親に任せすぎないなど、とても丁寧に診てくれます。親御さんの精神的な部分に気を留めて心理士さんにつないでくれたりもありました。2023年度は**小児がんのターミナルケア**もおこなったのですが、がん専門看護師などにも入ってもらって、いいかたちで診ることができました。

宮内　「はり姫」の小児医療はスタートアップの段階ということもあって、ネガティブにいえばまだ患者数が少ないともいえますが、裏を返せば、**一人ひとりの患者さんをじっくり丁寧に診療できる環境**があるともいえます。

忍頂寺　未診断例の患者さんやご家族は、原因がわからず不安を抱えていらっしゃるケースがすごく多いです。**慢性疾患や心身症、小児神経・消化器病、小児アレルギーなど**も時間をかけて診断できる、それによって安心を得てもらうことはこれからも大切にしていきたいです。

小児科
診療科長
忍頂寺 毅史

小児外科
診療科長（2023年度）
宮内 玄徳

「来てください」「みんなで診よう」

2024年4月から小児外科の診療科長を務める中谷です。「はり姫」に来たのは今日（左記の対談当日、2024年2月）でまだ2回目なのですが、オペに一緒に入ったところ、麻酔科の医師やオペ看護師も含めて活気に溢れていますね。同じ雰囲気を外来でも感じました。

専門病院や大学病院での勤務が長く、今般、久しぶりに市中の総合病院に身を置きます。「待ち」ではなく「来てください」、そして診療科や職種を越えて「みんなで診よう」の姿勢で患者さんやご家族、地域の先生方と向き合う「はり姫」小児外科のエネルギーを受け継ぎながら、私も日々の診療にあたっていきます。

地域医療のなかで、子ども自身が安心して治療を受けられ、ご家族やそれを取り巻く方々にも安心して子どもを任せていただけることが目標です。何卒よろしくお願いいたします。

小児外科
診療科長（2024年度）
中谷 太一